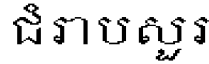


カンボジア通信

「河合塾カンボジア教育支援グループ」では、教材や机、椅子、皆さまから頂いた文房具や自転車などをカンボジアへ提供し、現地の教育環境を支援する活動を行っています。詳しくは、右記HPをご覧ください。

〒464-8610 名古屋市千種区今池 2-1-10
河合塾社会貢献事務局 総合政策部内
河合塾カンボジア教育支援グループ
<http://www1.oo.kawai-juku.ac.jp/kawaijuku/volunteer/k.html>

カンボジア日本友好学園の生徒が来日します！！



←この文字は「Chomleap・スオ」と読みます。

カンボジア語で「こんにちは」という意味です

昨年に引き続き、8月28日(木)～9月7日(日)の11日間、カンボジア日本友好学園の生徒3名が日本へやってきます。今回の短期招へいでは、京都の文化遺産見学や東京観光、日本の学生との交流会、河合塾での日本語短期レッスン受講などを予定しています。9月1日・6日には京都校・千種校にてカンボジア学生との交流会、9月2日には横浜校にてカンボジアについての講演会が行われます。最寄りの地区の方は、是非、ふるってご参加ください!!

(詳細は、HPまたはチラシをご参照願います。)

「カンボジア学生交流会」

*日時 9月1日(月)
*時間 14:00～17:00
*場所 京都校202教室
(地下鉄烏丸御池駅 徒歩3分)
*担当講師 世界史 金貞義 先生

※交流会形式になります

「戦争がもたらすもの」

*日時 9月2日(火)
*時間 15:30～17:00
*場所 横浜校本館4B教室
(JR横浜駅 徒歩7分)
*担当講師 日本史 石川晶康 先生

※講演会形式になります

「カンボジア学生交流会

& Farewell Party」

*日時 9月6日(土)
*時間 16:00～18:30
*場所 千種校本館6階 SDP ホール
(JR・地下鉄千種駅 徒歩1分)
*担当講師 現代文 牧野剛先生
世界史 金貞義先生

※講演会・交流パーティー形式になります

*内容

- ・先生方によるインドシナ歴史解説
- ・カンボジア学生の日本語による現地報告
- ・質疑応答(日本語日常会話が可能な学生で、通訳も同行するため日本語のみで質疑応答が可能です)
- ・京都校・横浜校は申込不要・参加無料です。当日、会場へ直接お越しください。
- ・千種校は申込制・参加費500円です。河合塾各校舎にて参加申込みください。

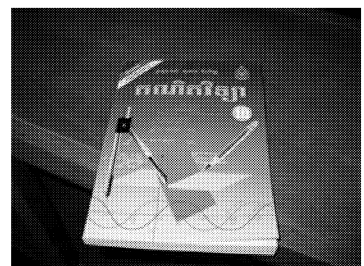
「カンボジア日本友好学園」の現状とカンボジアの学校事情

私たちが支援している「カンボジア日本友好学園」は中高一貫の中・高等学校で、680人くらいの生徒が学んでいます。設立して4年目ですので最高学年はまだ高校1年生です(カンボジアでは小学1年生から通して数えるので10年生と呼んでいます)。

カンボジアでは、学校へ通いたくても経済的な事情から通えない子供たちがたくさんいます。また、国の税収が少ないので学校の先生の給料はとて少なく(月20\$ほど)、先生たちはアルバイトをしないと生活ができません。このため、授業は午前中に2～3時間だけだったり、先生が学校に来なくて授業が休みになることもたびたびあります。友好学園では日本のNGOの支援で、授業料も無料、先生にも給料の補助をしてアルバイトを禁止しているので、毎日6時間の授業が行われています。

教科書は国から無料で支給されることになってます。しかし、支給申請をしてもなかなか学校に届かないのが現実です。友好学園の10年生では2～3人に1冊しかなく、3人に1冊貸し出してその中で順番に家に持って帰る、という使用方法になります。これでは勉強したくても、なかなかはかどりませんね。

今、10年生の多くは大学進学をめざして頑張っています。大学へ行くには、①高校卒業試験に合格すること②大学の入学試験を受けて合格すること、が条件ですが、たとえ「②」の大学入学試験に落ちても年間400\$ほどの授業料を支払えば「入学」できます。アメリカのように、入学希望者は拒まないという考え方のようです。現金収入のほとんどない田舎に生活する友好学園の生徒で、この授業料を払える家庭はありません。生徒たちは狭き門の入学試験合格をめざして、毎日真剣に授業を受けています。



《非売品のはずの…》



現地支援報告 ～2003年 3月28日～4月4日 の物資運搬～

生徒用机306、イス299、会議テーブル13、自転車58台、文房具の入った段ボール87箱、通学バッグ2千個など、昨年を上回るたくさんの支援物資を集めることができました。皆様のご支援ありがとうございました。これらをコンテナ5本に目一杯詰め込んで、名古屋港からシンガポール経由でカンボジア南西部のシアヌークビル港に3月26日に到着。現地での陸路輸送と仕分け作業の様子を報告します。



首都プノンペン

ポチェントン空港からプノンペン国際空港に名称が変わり、VISAの申請や入国審査はスムーズになり、賄賂など不正も減ったようです。友好学園の創始者であるコン・ボーン氏に出迎えていただき、車でプノンペン市内のホテルへ。高層ビルは少ないものの、大通りの両側にずらっと並んだ商店や飲食店、ひっきりなしに走るバイクの数や信号のない道路を上手に横断する歩行者・・・など、首都プノンペンの活気ある様子がしっかりと伝わってきました。



村までの凸凹道

プノンペン 早朝5:30。まだ暗い中をカンボジア-日本友好学園のあるプレイベン州に向けて出発しました。プノンペン市を離れるとすぐにアスファルトで舗装されていない道になり、電柱もなくなります。プノンペン以外は都市化がなかなか進んでいません。なるほど、プノンペンから村までは車を運転しないと云ったコン・ボーン氏の意味がわかりました。一本道ですが凸凹な悪路なので、穴ぼこを避けながらの運転は非常に疲れるのです。また、3・4月は乾季なので、ものすごい砂ぼこりの中、凸凹の道を大きく揺られながら、4時間かけてやっと友好学園に到着です。

遅れて昼の12:30頃、支援物資のコンテナが到着。名古屋港でコンテナに封印されたラベルを確認してから、気温38℃と酷暑でしたが、教員、生徒、そして村人20人ほどがコンテナから机・イス・テーブル・自転車などをテキパキと運び出し、校庭にきれいに並べました。今回で3回目の輸送です。少し慣れてきたようでみんなよく働きます。支援物資は話し合いの上、友好学園だけではなく、近隣の66ヶ所の学校にも分配することにしたので、その振り分けをモノの状態を確認しながら、コン・ボーン氏中心に行ないました。学校には電気が通っていないので、夕方暗くなったら、作業は終了です。



人気は自転車

積み下ろしの時から、たくさんの物資の中での生徒の関心は自転車に集中し特に男子はマウンテンバイクに目を輝かせていました。この自転車の取り扱いに関して、4つのルールが決まりました。①両親の承諾を得て貸し出す②故障箇所は生徒が責任を持って修理する③学校を辞めたら返す(卒業した時も)④紛失や盗難に遭った場合は弁償する(転売を防ぐため)というものです。今回輸送した自転車のほとんどは、鍵がロックされていたり、長く使用していないので、空気が抜けていたりパンクしていたり・・・など、喜んでくれるのか少し心配でしたが、自転車を貸与された生徒は早速、学校のすぐそばにある自転車修理屋で施錠された鍵を外したり、パンクを修理していました。



友好学園の生徒 共通テストで好成績

3月に近隣の7つの中学校で実施した共通テスト(数学・物理・カンボジア語の3科目)で、成績優秀者12名のうち、9名が友好学園の生徒(1位は3科目とも友好学園)に決まったという嬉しい知らせが入りました。友好学園の生徒の勉強に対する努力や先生方の授業の成果があらわれ、学校という学習環境が整備されれば、子どもたちの可能性が大きく広がることが証明されたとも言えます。成績優秀者には表彰の際に、支援物資のボールペンやノートを授与しました。また、河合塾大阪校の採点者が答案を持ち運ぶ時に使っていた緑色のプラスチックバックを生徒全員に配ることができました。これからはカンボジアの生徒の通学カバンとして使われることでしょう。



《積み下ろしに協力してくれた先生と村人たち》

★ちょっと一休み★

カンボジアの古い都に「ウドン」という町があります。今でも、遺跡があるので、小さな観光地になっています。(プノンペンから50キロくらい)昔、この町を訪れた日本人が、そこでとても美味しいヌードルを食べてぜひ日本に帰って同じ物を作りたいと言って、作り方を教えてもらいました。その時、このヌードルはなんとよばれているのか、と尋ねたのですが、通訳が質問の内容を間違えて、ここはなんとという所か、と聞いてしまいました。そこで、現地の人が「ウドン」と答えたところ、その日本人はヌードルの名前と思い込んで日本に帰りました。

これが、「うどん」の語源だそうですよ!

◆ 今年度募金計画 ◆

交流プロジェクト	: 800,000 円
植林プロジェクト	: 100,000 円
もの育てプロジェクト	: 100,000 円

